

**「(仮称) 滋賀の県立高等学校魅力化プラン」の検討に係る地域別協議会
南部地域 結果概要**

1 会議の日時等

開催日時 令和4年11月29日(火) 14:00~15:35 (南部合同庁舎4A会議室)

出席者	市町	氏名			
	草津市	北村大輝	作田まさ代		
	守山市	中島義訓	寺井信義	北川清司	上村瑠美
	栗東市	俣野裕美	岸田 修	永野剛士	
	野洲市	中野良博	井上善之	光永 智	鈴木 健

(敬称略)

◇滋賀の県立高等学校の魅力化について

2 出席者からの主な意見

①	南部地域には多くの高校が集中しており、交通の便も良い。中学生が高校選択する際には、通学を条件に含まなくてよいのが他地域と異なるところである。
②	南部地域は、高校のバリエーションが豊富で交通の便も良い。各高校が情報発信してもらえると、中学生はいろいろ見学に行ける状況にあるので、ありがたい地域性と思っている。
③	中学生は、高校生活に自分の意思を表明する場があり、主体性を伸ばせる環境を求めている。近年の中学生は、自己肯定感を持つことへの意識が強いと感じている。
④	中学生は、義務教育段階では学べない高い専門性を求めて高校を選んでいる。
⑤	中学生は、そこにしかない特色ある学びを求めて高校を選んでいる。魅力化の重点でいうと、主に地域連携や高大連携に魅力を感じている。
⑥	なんとなく普通科を選んでいる中学生は多い。それぞれの普通科高校が特色化を進めていく中で、中学生は頑張りたいことを持って進学してほしい。
⑦	普通科の中に色んなコースがあることも、中学生にとっては魅力になる。
⑧	やりたいことが明確な生徒は専門性が高い学びを求めて高校を選択するが、専門性が高い高校は限られている。これらの生徒の可能性を広げられるような高校づくりも進めてほしい。
⑨	中学生は、それぞれの高校の特色を見て高校を選択している。「〇〇高校に行けば、□□がある」といったことを示すことで、中学生に魅力や特色が伝わる。
⑩	中学生にとって、高校の特徴を知る機会が少ない。実際の高校生姿を知る場を多く設定してもらえると、中学生に魅力が伝わるのではないか。
⑪	私学は、様々な機会を設けて情報発信している。県立高校の体験入学は夏休み中心になるのは仕方ないが、子どもたちは悩みながら高校を決めていくので、少しでも多くの学校見学の機会があるとありがたい。
⑫	守山市は、京阪神を含め県内の様々な高校に行きやすいため、県内・県外、県立・私立問わず様々な情報が入ってくる。地元の県立高校も、様々な機会を使ってアピールしてもらえればありがたい。
⑬	中学校には、紙媒体の学校案内パンフレットはたくさん届くが、実際に高校を見学する機会は少ない。高校の雰囲気や中学生に知ってもらうために、普段の授業を見学する機会を、中学3年生のできるだけ早い時期に複数回設定してもらえると、中学生や保護者は高校選択の視野が広がる。

⑭	地元の中学生に地元の高校を選んでもらえるようにするためには、高校側の魅力発信が大きく関わってくる。県教育委員会と市教育委員会と一緒に考えていく必要がある。
⑮	中学生にとって、実際に高校の雰囲気を見ることは重要だと思う。
⑯	普段の授業を見学すると、より高校生活の実感が持てるので、そのような機会を増やしていただければありがたい。
⑰	文部科学省の指定事業を学校の柱として公開授業を推進すれば、中学校教職員や保護者等も高校見学に行きやすくなるのではないかな。
⑱	この魅力化プランは、大変丁寧にまとめられていて分かりやすい。これまでの取組をベースに5つの重点項目で整理されているので、生徒や保護者は見通しを持って進路について考え、最終的に体験入学を通して志望校を決定できればと思う。中学校でも、それぞれの高校の魅力や特色をしっかりと発信していく必要がある。
⑲	南部地域でも、少子化や30代～40代の人口流出が課題となっている。南部地域だけでなく滋賀県全体として移住や定住の施策に力を入れていく必要がある中で、滋賀県内には様々な魅力ある高校があることをアピールすることも、まちづくりの観点で考えていく必要がある。
⑳	特別な教育的支援が必要な生徒へのサポートが充実していることをアピールする私学もあり、その説明を聞くために学校見学に行く生徒は増えてきた。県立高校でも、それらの生徒がしっかり学べる場がほしい。
㉑	小中学校では、特別な教育的支援が必要な生徒の個別支援計画を作成して、生徒一人ひとりに応じた支援に取り組んでおり、この取組は浸透している。高校でも、小中学校から引き継いだ個別支援計画を生かしてもらうことで、生徒たちは安心して高校に通うことができる。
㉒	不登校傾向の生徒の中には、県立通信制高校ではなく広域通信制高校へ進学する者も多い。色々悩みながらでも進路を切り拓いていきたいと思っている子どもたちのための選択肢の幅を広げてあげてほしい。
㉓	不登校傾向の生徒が高校に入学しても、しっかりサポートしてくれる体制があれば保護者は安心する。
㉔	不登校生徒や特別な教育的支援が必要な生徒への対応については、高校の先生方の苦労もあり大きな課題になっていると感じている。地元の普通科高校に支援が必要な生徒に対する手厚いサポート体制が整っていることは、普通科の一つの特色ではないかと感じている。
㉕	不登校傾向の生徒の多くは、昼間定時制高校や私立通信制高校等へ進学している。これらの生徒のために、いろんな形態の県立高校を考えていただきたい。
㉖	SDGsの観点から誰一人取り残さないということを目標に掲げているので、不登校生徒へのフォローについては、しっかり取り組むべきと思う。
㉗	不登校傾向の生徒や特別な教育的支援が必要な生徒の進学について、中学校と高校は一層連携していく必要がある。
㉘	この魅力化プランは、丁寧にまとめられていて分かりやすい。これまでの取組をベースに5つの重点項目で整理されているので、生徒や保護者は見通しを持って進路について考えることができる。
㉙	この魅力化プランは、それぞれの高校の特徴が丁寧にまとめられていて分かりやすい。
㉚	各高校の特徴が5つの重点項目で明確化されており、大変分かりやすい資料になっている。
㉛	これまでから、県教育委員会は魅力ある県立高校づくりに取り組んでいることは知っていた。特に、湖北地域の高校は様々な工夫をして魅力化を図ってきた。今回の魅力化プランは、その積み重ねを整理されたものであり大変参考になる。

③②	高校によって5つの重点項目の○印の数にばらつきがあり、学校によって取組に差があるような印象を受ける。これは、「特徴となる学び等」も同様である。可能であれば、○印の数や箇条書きの項目数は統一した方がいいのではないか。
③③	今後の魅力化の方向性の「特徴となる学び等」は、魅力化というより各校の特色が示されているように感じる。もう1列設けて育成を目指す生徒像等を記載すると、より魅力化を発信しやすくなるのではないか。
③④	「○○高校では、こんなことに取り組んでいる」といったことも重要だが、子どもたちは魅力ある先生と出会って成長していく。高校だけでなく、指導する先生方も魅力的になってほしい。
③⑤	働き先は大企業、中小企業等様々だが、大多数の生徒は、将来中小企業等で勤めることになる。中学校・高校の先生は、中小企業等で働くことはどういうことかも知っておいてほしい。
③⑥	できるだけ早く子どもの自立心を養いたいと思っている保護者にとっては、寮を整備した高校があればありがたいのではないか。
③⑦	部活動が強い高校については、その部活動におけるハード面が充実すると、生徒たちはより魅力を感じる。
③⑧	守山北高校が地域との連携を進めていく上で、守山市が環境学習都市であることも生かしながら協力して取り組むといいのではないか。まずは、お互いができることから少しずつ始めていき、成功事例を積み上げていけばいいのではないか。また、他の高校との連携を深めていくことも、子どもたちにとっては新しい刺激になるのではないか。
③⑨	市と高校生が協働して何かに取り組む機会はあまりなく、市と高校がどういった連携ができるかは十分検討する必要がある。市としては、地元の高校へ進学し、地元へ愛着を持って定住してもらえればありがたい。地域には、歴史や文化があり、様々な教育資源がある。市も高校と連携しながら、地元の高校に興味を持ってもらうための魅力発信は大事ではないか。
④⑩	進路指導の観点から見た高校の魅力は、「入口」と「出口」になる。「入口」は各校の魅力・特色をどれだけアピールできるかということ、「出口」は高校卒業後の進路実現のために生徒一人ひとりに対応できているかということ。「入口」と「出口」の中間に当たる部分は、各高校での専門的な学びや学校行事等を指す。
④⑪	滋賀県の子どもたちが世界で活躍してくれるのはいいことだが、今後の滋賀県や地元市町を支えてくれる人材育成も大事である。野洲市にできる高等専門学校に、地元の生徒が進学し、地元の企業に就職し、将来地元へ貢献してくれる人材が育成できればありがたい。
④⑫	野洲市にできる高等専門学校には期待している。いい学校を作っていただきたい。

※発言順不同